

令和 2 年度（2020 年度） 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況

1. 令和 2 年度（2020 年度）（クマ年度）のヒグマ目撃件数など令和 2 年（2020 年）3 月 1 日～10 月 20 日

	斜里町	羅臼町	合計
目撃件数	792 (970) 件	182 (339) 件	974 (1309) 件
対応件数	568 (519) 件	254 (268) 件	822 (787) 件
有害駆除頭数	6 (26) 頭	5 (13) 頭	11 (39) 頭

※ ()内は前年度通期（平成 31 年（2019 年）3 月 1 日～令和 2 年（2020 年）2 月 29 日）の数字。

※ 上記の「対応件数」には、住宅地・番屋密集地防衛用の電気柵の維持管理作業（斜里 122 件、羅臼 87 件）を含む。

2. 令和 2 年度（2020 年度）のトピック

<斜里町>

- ① **地域企業と協同で草刈りを実施** 地域の企業（北こぶしリゾート）の社員の皆様の全面的なご協力を得て、ウトロ市街地電気柵内のササやイタドリの刈り取り作業を 5～7 月に計 5 回実施しました（写真 1）。前年 6 月にヒグマ 1 頭が海岸側の柵の無い場所から回り込んで市街地へ侵入した際、長時間ヒグマに潜まれて対応に苦慮した深いヤブの見通しが、この CSR 活動（クマ活）のおかげで今年は劇的に改善されました。その成果かどうかは不明ですが、ウトロ市街地電気柵内へのヒグマの侵入事例は、令和 2 年（2020 年）は確認されていません（10/20 現在）。
- ② **ゴミの不法投棄が多発** 4 月 1 日から 10 月 20 日の期間中に知床財団が対応したゴミの不法投棄は計 29 件でした（最多が 5 月の 12 件、次いで 8 月 9 件）。これらのゴミには、ヒグマが餌付く可能性のあるオニギリやメロンなどの生ゴミ、弁当トレー等のコンビニ系ゴミ、釣り餌、マスの残滓などが含まれていました。また 5 月 5 日には、幌別駐車帯付近でビニール袋を啜ったヒグマが目撃されました（写真 2）。このビニール袋には泥水が入っただけでしたが、同所では 5 月 1 日と 3 日にもゴミを回収していました。上記のヒグマの兄弟の糞にはゴミが混ざっていました。頻発する不法投棄により、全てのゴミを回収することは困難な状況です。今年は新型コロナウイルスの感染防止対策の一環として、ウトロ市街地内のコンビニ等でゴミ箱が長期間撤去されたため、特に車中泊者はゴミの捨て場所に困った可能性があります。このような要因により、例年よりもゴミの不法投棄が目立ったのかもしれない。

課題：HP や SNS 等で、ゴミ投棄防止の啓発を目的とした情報発信を行いました。また、国道管理者や森林管理局、斜里町役場等が連携し、見晴橋（国立公園内）や幌別駐車帯に看板や自動撮影カメラ等が設置されました。マスコミにも何度か報道されましたが、ゴミの投棄がゼロになることはありませんでした。情報発信やゴミ回収を行うだけでは、限界があるようです。そして、これらのゴミに餌付いたヒグマ

による人身事故は、いつ発生してもおかしくない状況です。

- ③ **危険な問題個体をなんとか捕殺** 7月31日、遺産地域の境界線である幌別川河口で同じ日に複数回、釣り人が釣った魚（カラフトマス）をヒグマに奪われました。同日中に当該個体の皮膚片をダートバイオプシー（生検用の針を麻酔銃のガス圧を利用して発射すること）により採取し、北大に DNA 解析を依頼したところ、当該個体には3月にも人へのつきまといや、リュックを奪おうとするなどの前科があった可能性が浮上しました。人身事故を起こす可能性が高い、特に危険な問題個体としてこのヒグマの捕獲準備に取り組みましたが、諸事情により射殺まで24日間を要しました。この間に当該個体は、漁業者に異常接近して漁船の上に乗るなど、釣り人以外の人々が危険にさらされる事例も発生しました。

課題：社会情勢の変化により、問題個体の選択的かつ迅速な除去（猟銃による射殺）が実施困難となってきました。一方で知床半島のようなヒグマの高密度生息地で箱わなを多用すると、錯誤捕獲の増加により個体群維持への悪影響が懸念されるため、道内他地域（ヒグマの生息密度が低く、大半が保護地域でもない地域）と同様の手法を選択するのは困難です。知床が世界遺産地域であり続けるためには、これまで以上に人間側が注意して、人間の食べ物や生ゴミにヒグマを餌付かせない（そもそも問題個体を作らない）ようにする事前の取り組みの、一層の推進が必要です。



写真1. 地域企業のCSR活動「クマ活」によるササ刈り・草刈りの様子



写真 2. ビニール袋を口にくわえたヒグマ

<羅臼町>

- ① **町内会や建設会社と協同で草刈りを実施** 6月以降、10箇所¹の町内会の主催で、住宅地周辺の草刈りが実施されました。羅臼町内で事業を行っている建設会社の方々も地域貢献活動として参加して下さいました。ヒグマが潜むことのできる深いヤブが、住宅のすぐ裏手に広がっているような状況が改善され、地域の安全性が向上しました。
- ② **今年は連続犬食い被害の発生なし** 羅臼町内では平成30年(2018年)及び令和元年(2019年)の7~8月に、屋外でつながれていた飼い犬がヒグマに食害される事件が起きましたが(計5頭の被害)、今年と同様の被害は発生しませんでした。ただし、現場付近の糞など遺留物のDNAから、最近の犬食害すべての加害個体と推定されているオス成獣は、今年も生存が確認されています。7月に斜里町側の国立公園内(カムイワッカ〜ルシャ間)で、この個体のDNA(体毛)が発見されたためです。オス成獣は広域を移動するため、今後も羅臼町はもちろん、斜里町や標津町でも犬が食害される可能性があります。
- ③ **半島先端部赤岩地区でシーカヤック利用者がヒグマに異常接近される** 4月12日、シーカヤック利用者にヒグマが興味を持って繰り返し走って接近し、利用者が至近距離でクマスプレーを噴射することで当該ヒグマを撃退するという事例が発生しました。当事者の帰還・情報提供後、直ちに各施設のHPや現地看板等で、知床岬方面の海岸線トレッキングコース等の「利用自粛」が呼びかけられました。その後、この問題個体の捕獲も試みられましたが再発見に至らず、現在も生存しているものと推測されます。

課題：現在の知床には、人の側の行動をコントロールできるような国立公園利用調整システムが、大半のエリアにおいて存在しません。そのため、たとえ人命を守るためであっても、緊急時に国立公園利用者の行動を制限することができない(自粛要請にとどまる)点が大きな課題となっています。

【ヒグマに関する普及啓発・情報発信サイト】



知床のひぐま (HP)



BearSafetyShiretoko
(Facebook)



Bear Safety Shiretoko
(Twitter)



bear_safety_shiretoko
(Instagram)

(データとりまとめ：知床財団)